

# Go-ing! くしろ

## JCI 2010

くしろ夕日プロジェクト2009  
フォトコンテスト部門 グランプリ

作品名 **「共 演」**

撮影者 **佐々木 浩さん**

くしろ夕日プロジェクト2009  
キャッチコピー部門 グランプリ  
**「くしろの夕日にはドラマがある」**

### 作品への思い

旧阿寒町、旧音別町、旧釧路市が合併した2005年の秋、一番夕日が美しい9月下旬から10月中旬の間、夕日の見られた日はすべて撮影に行きました。写真は、新制釧路市が誕生した2005年10月11日、あたかも合併を祝福するように幣舞橋と共演しながら沈みゆく見事な夕日です。

### 〈創刊号目次〉

くしろ夕日プロジェクト／「くしろ」ロゴマーク	1
「まちづくり」に「くしろ」を考へてみました	2
●特別対談「市民の「まちづくり」行政の「まちづくり」	3
「まちづくり」の「くしろ」を考へてみました	4
●市民活動センター「わっと」をもっと知りたい	5
●第26回くしろ霧フェスティバル／釧路JCIの先輩の「まちづくり」	6
くしろJCIの「まちづくり」を紹介します	7
●くしろの魅力発掘委員会	8
●しあわせ共働委員会	8
新入会員紹介	8
(社)釧路青年会議所 くしろ夕日プロジェクト／フォトコンテストギャラリー	8

**リニューアル創刊号**  
「釧路JCI広報誌は、より市民の皆様へ活用して頂けるよう、共にまちづくり活動を行われるようにリニューアルしました。」



ロゴマークはホームページよりご自由にダウンロードしてお使いください。

このロゴは一文字一文字で、「くしろ」の自慢を表しています。

### ●あなたもくしろロゴマークを使ってみませんか？

Kは丹頂とフキ、Sは釧路湿原と釧路川、Iは幣舞橋と世界三大夕日、Oは阿寒湖と天然記念物まりもを表しています。これにより初めて会う人とも会話が弾み、さらに釧路の良いところまで説明出来てしまうという優れモノです。（くしろロゴ5万人プロジェクト）

### ●例えばこんな使い方

- お店ののれんでイメージアップ！
- 名刺でさりげなく釧路をPR！

**詳しくは (社)釧路青年会議所 ホームページをチェック!!**

# いろいろ考えてみました!

## 特別対談 釧路市長 蝦名大也氏

### 『市民の“まちづくり”行政の“まちづくり”』

社団法人 釧路青年会議所 第59代 理事長  
後藤公貴君

今回の特別対談は「市民のまちづくり」行政の「まちづくり」と言うテーマです。以前と比べて今の釧路市民は、時代の変化と共に少しだけ自信を失っているような気がします。本当は地元で就職したい、遊ぶ所があれば釧路に住んで、結婚もして……と考えている若者たちも大勢いますが、中々その実現が叶わず釧路から離れていってしまう人もいます。

その中で市民が自分のまちに誇りをもつ為に市民にはどういう意識が必要なのでしょう。そして行政はどのように考えているのでしょうか。それでは対談をお楽しみください。

## テーマ1

自分たちが住んでいるこの釧路に対して、もう一度自信を取り戻す為には市民自体にどういう意識が必要だと考えますか？

釧路市長（蝦名大也氏）

「多くの方々が来釧される事実をしっかりと認識する」

理事長（後藤公貴君）

「まちの事をもっと知ることで」

蝦名 釧路市民はシャイなタイプの人が多いでしょう。自分のまちを自慢しないとか良く言わない風土があると思います。しかし、考えて頂きたいのは、この釧路に、日本の各地から、また世界から多くの観光客の方々が来ていただいている現実です。例えば、季節移住では、夏の涼しさを求めて、日数のカウントでは、平成20年の約五百日から、平成21年は千五百日を越えるなど3倍以上の実績となっております。また、海外からの観光客は、映画のおかげもあり、中国からのお客さんがどんどん増えております。お話を伺うと、釧路空港に降りて、最初に空気が綺麗だと感動され、釧路湿原の雄大さに歓喜が上がるなど、私たちが当たり前とされていること……「寒い」も受け止め方で「涼しい」となりますよね……それらを求めに多くの方々が来釧される事実をしっかりと認識する



後藤 私には市民に向けてという事は「もっと知る事」だと思っています。例えば末広の飲食店で、「釧路を観光する際にどこに行ったら良いですか」「どこに食べに行ったら良いですか」「この近くでお勧めのスポットはありますか」など、お客さんに尋ねられた時にスタッフが困って答えられないという場面があるようです。まちの事をきちんと知ろうとする事が大事だと思います。そして、私たちを含めた青年世代とい



後藤公貴君

うのは、この地域を取り巻く環境として国がこの地域をどうしたいかという所を含めて、しっかりと知った上で意見を言えるような一人一人になってこのまちでしっかりと仕事をしたいくべきではないかと思っています。

蝦名 東京などの人があの暑さから逃れて釧路で涼むとか、安心できる新鮮な食材を求めると、今や多様な価値観が主流になっております。全総時代・高度成長期時代の「均衡ある発展」から「特色ある発展」への大きな政策転換は、「金太郎船のようなまちづくり」から脱却することでありました。言葉としての意味は誰もが「理解」するものの、一人ひとりが頭の中で「意識」できるかが重要です。多様な価値観が存在する社会は、地方への大きな可能性と受け止めております。

後藤 やはり基幹産業のまちから観光のまち。さらに住みよいまちへと変化しようとしていっている中で、市民の意識が今後ますます大事になっていくと思います。

蝦名 人に紹介するためには自分が良いと思わないと紹介なんてできませんよね。では多くの観光客の方々はどのようにして釧路に来てくれているのでしょうか。暇でどうしようもなく来ているはずもなく、雄大な自然や新鮮な食材など、目的を持って来ているのです。つまり、魅力あるもの、誇れるものがこの釧路にはたくさんあるのですから、その地域資源を活用しようという意識が大切です。

後藤 これは、再分配と承認の相互関係のことで、雇用・子育て・医療などの社会保障の充実と、人々を孤独に陥らせないような相互承認のネットワークで包みこむ暖かい社会状況のことです。私としては、市民同士が関係性を深め、誰も孤立しない、互いに支え合って暮らす街を理想として、この言葉を使っております。例えば、青年会議所の活動も同様だと思います。メンバー個々のまちづくりに懸ける

## テーマ2

例えば5〜10年後を見据えたときに今後の住みよいまちを作る為の行政の方向性、そして行政の立場から見て市民・団体の皆さんに行ってもらいたいと言う具体的な内容はありますか？

釧路市長

「今、本当に必要なのは」

理事長

「みんなでやる事が大事だと思います」

蝦名 これからは市民活動を活性化していく施策が必要になってくると思っております。今も、多くの市民の方々が、それぞれの大切な時間を使って団体活動やボランティアなどご尽力頂いておりますが、釧路での市民活動などの基盤・素地は、他地域と比べても高いものがあると思います。その基盤を活かして、市民活動をどんどんバックアップできる仕組みを構築したいと思っております。

欧州でよく使われている考え方に「社会的包摂」との言葉があります。これは、再分配と承認の相互関係のことで、雇用・子育て・医療などの社会保障の充実と、人々を孤独に陥らせないような相互承認のネットワークで包みこむ暖かい社会状況のことです。私としては、市民同士が関係性を深め、誰も孤立しない、互いに支え合って暮らす街を理想として、この言葉を使っております。例えば、青年会議所の活動も同様だと思います。メンバー個々のまちづくりに懸ける

# “まちづくり”について



## 「社会的包摂」とは

ヨーロッパ諸国で家族や地域社会、企業における従業員の家族意識といった、互いを支え合う基盤が崩壊してしまっただけに、彼らを孤立させずにもう一度社会の中に包摂しようという政策理念。ヨーロッパ諸国では若い失業者、低所得者、外国人、ホームレス、

薬物中毒者などを社会から排除しようという動きが顕著となり、そのために社会不安が増大してきた。それに対して、こうした事態が続けば国家の崩壊にまで行き着くという危機感から包摂理念が生まれたという。人が社会とつながりをもって生きていくためにもっとも必要なのは仕事をもちことである。排除されやすい人ほど仕事が見つからないという悪循環に陥りがちなことから、一九九一年にイタリアで障害者などのための仕事づくりに取り組む団体を支援する法律ができ、その動きはドイツ、イギリス、ギリシャ、フィンランドなどに広がった。EU（欧州連合）では二〇一〇年までに社会からの排除をなくすためのさまざまな行動計画を各国でつくることとしている。

【新語探検 著者：亀井 肇 / 提供：JapanKnowledge】

情熱から、それぞれが持つ大切な時間や労力を地域社会に分配してまいります。再分配とか社会保障と言うと大げさに考えますが、それぞれが持つものを再分配して、暖かい地域社会を創ると考えて頂くと判りやすいと思います。

**後藤** その中で、制度や資金の壁と云うのが出てくると思うのです。そういう中で、手助けとして行政の方でできる事。

まちづくりをしている団体でも市の行政の機関が解らない部分もあると思うのです。その中でこういう所を活用してほしいという所があればお聞かせ願いたいと思います。

**蝦名** 市役所など行政機関が得意である分野は情報収集であると思えます。自分のまちと他のまちとの違いとか、どこそこでは何をしているとか。併せて、制度・仕組みも熟知していなければいけませんよね。よく申し上げるのですが、普通の市民が調べるのに一ヶ月かかるものなら行政では三日から一週間で調べ上げることが求められると思います。その情報を市民に提供するという活用方法が本来の姿と想っております。日本は、中央依存型と言われ、多くは国に任せてきた。また、それだけ



蝦名 大也 氏

ではなくて、道や市役所などにも同様で、社会の仕組みが「依存型」だったと思います。自治の形には、これまで主流だった団体自治（行政機関主導型）と、これから求められる**住民自治**があります。今、団体自治と住民自治のバランスをとりながら、車の両輪のようにスタートするチャンスと受け止めております。

**後藤** 社会的包摂というのは、まさにJCの目指すべきところだと思います。本年度我々の方針で謳っているのが本当の意味での連携だとか協力って何でしょう、という所です。一緒に活動をしたい皆さんと目的を共有した中で一方に負担がかかるような手助けではない協力体制が長年にわたって培っていきける。

今後、青年会議所が市民と共に歩んでいく為には、それをやっていかねければならないと思います。

**蝦名** それが一番ベストだと思います。それぞれが費やす時間や労力は、とてつもなく重要なもので、お金で測れない価値があります。その重さを意識することが大切ですよ。あらためて、会社などで仕事や立場がある方々が、大切な時間を使いながらこのまちをどうしようかと議論し、かつ、行動頂いていることに心から感謝を申し上げます。

**後藤** 例えばお金を払って見るものに対して「金を払ってまで見ない」という雰囲気になってしまっていると思います。自分でそういう物を見て考えるとか、そういう事をしようという考えがなくなっていますよね。

**蝦名** やっぱ「全てがタダ」って良くないことありますよね。やっもらうのが当たり前となってしまう、ある種の権利だけを増幅することになってしまいますよね。権利と義務は一对なのが民主主義の原理原則ですから、ある程度の中でご負担をお願いしますとの文化を作っていないと駄目だと思います。また、お金に関して申し上げますと、まちづくりのイベントなどに、市役所は補助や助成をするのが仕事ではないと思います。予算は公金であり、市民の皆さんから預かっているお金ですから、そのお金を使うには運用の意識を持たなければなりません。そのイベントにどうやって多くの市民に参加して頂くかなど、コーディネート分野などにも市役所が加わると、お金以上の効果が期待されるなど、重宝されると思います。



**後藤** 私はみんなでやるのが大事だと思います。一人でやる事には限りがありますし、若さだけでは思い通りにならないとも思いますし、年配の方が束になっても弱い所がありますし、となれば支えてくれるのは皆さんだと思われ、継続していくために支えて頂くのは皆様だと思えます。だから、続いても続かないも皆さんなんだ。だから、そこをけん引する側に居れば必ず達成感だったり、まちに対する気持ちも変わってくる

んじゃないか。という単純な発想なんですよね。

**蝦名** その通りだと思います。これからのために市役所に担当窓口を作るようにしていきます。相談したらたらい廻しにあったとならないように、青年会議所のことはこの窓口！と明確にして参りますね。

まちづくりは、若い世代が、自分の住むまちを造りあげる気持ちで進めていくべきものだと考えております。私も30代で市議会議員に立候補しましたが、その時、これから30、40年このまちに暮らしていく自分立場を与えて欲しいと言ってきました。ひとつの判断の結果は、10年なり20年の時間が掛かるものであるから、若い自分は責任を取れると。今もこの考えに変わりはありません。全ての可能性は時間に比例するものから、若い世代の真剣な議論に期待しております。

さて、今回の特別対談はいかがでしたか？

私たち市民が自信を取り戻すために必要な事、それは「釧路は素晴らしい」という事をきちんと知る事です。

一昔前とは比べ物にならない位の多様な価値観の中で、釧路には有利な資源が本場に沢山あります。

そして、「富を再分配して誰も排除しない社会」を市民皆で目指せば、素晴らしい釧路がまた一つ増える事になるのではないのでしょうか。

この対談が皆さんにとって、考えるきっかけになる事を願います。まとめさせて頂きます。

さて、今回の特別対談はいかがでしたか？

私たち市民が自信を取り戻すために必要な事、それは「釧路は素晴らしい」という事をきちんと知る事です。

一昔前とは比べ物にならない位の多様な価値観の中で、釧路には有利な資源が本場に沢山あります。

そして、「富を再分配して誰も排除しない社会」を市民皆で目指せば、素晴らしい釧路がまた一つ増える事になるのではないのでしょうか。

この対談が皆さんにとって、考えるきっかけになる事を願います。まとめさせて頂きます。

# いろいろ考えてみました!

# 市民活動センター「わっと」をもっと知りたい。



「わっと」は、保健・福祉・子育て、文化・生涯学習、国際交流、自然環境、まちづくりといった様々な市民活動の情報が一目でわかるパンフレットを閲覧できるコーナーを設けています。

「わっと」には、登録されているだけで180以上の市民団体があり、これらの中から手を取り合えば、今以上に「わっと」ももっともって良い活動に出来るはず。2010年度釧路JCでは釧路市民活動センター「わっと」と連携し、それぞれの団体の活動の一助となるよう広報に關してお手伝いさせて頂こうと思っております。

さて市民団体には様々な種類のものがあります。これらの市民団体が会議をしたり、いろいろな物を作成したり、相談したりするのが釧路市民活動センター「わっと」です。今回は「わっと」がどのような活動をしている所かを詳しく紹介しましょう。

**「わっと」とは** (ホームページより抜粋)

これから市民活動をはじめたいという人、それらの活動をしている人を応援し、一人ひとりの出会いを大切にしたいと考えています。「何かわからないけどセンターに来ると楽しい」とそれが釧路市民活動センター「わっと」です！市民活動がスムーズに運営されるように、また「市民活動とは具体的にどんなものなのか」をより多くの人に知ってもらうためのサポートをしていきたいと考えています。

「ひと・まち・ここをつなぐ」をキーワードに、市民活動のネットワークがさらに広がること、地域の活性化を願っています。

## 特別インタビュー 「わっと職員さんに直接聞いてみました」

今回はさらに、普段まちづくり団体と直接接している「わっと」の理事長さんと事務局長さんに、まちづくりについてお話しを聞かせて頂きました。

**聞き手** 理事長 小林友幸氏  
事務局長 廣島悠作氏

**問** 「わっと」を利用される市民団体はたくさん種類がありますが、今回は特に「まちづくり」団体についてお聞きします。釧路市のまちづくり団体の活動は「わっと」をどのように利用されていますか？また、職員さんとしてはどのように利用して欲しいと考えていますか？

**答** 印刷機・会議室などのハードはもちろん、市民活動・運営の相談にどんどん来てほしいです。例えばNPO団体への移行、これに関しては団体の規模・目的なども聞きまします。無理にNPO団体にならない方がいい場合もあります。その他に助成金の申請方法や会計の仕方など運営面のお手伝い出来ます。

**問** 利用団体の情報公開も行っていきます。わっと職員さんの運営スキルも年々上がってきています。とにかく困ったら相談だけでも来てほしいと考えています。そして市民活動をする方々

だけではなく、バスの待ち時間にぶらっと立ち寄り頂くだけでも良いので、市民の方にまずは館内に足を運んで頂きたいと思えます。

**問** (社)釧路青年会議所では昨年度より「くしろ夕日プロジェクト」と題して世界三大夕日を、まずは市民の皆様・そして日本全国へ発信したいと考えています。そのような釧路が元気になる・自信になるような取り組みがあれば教えてください。

**答** 今夕日のお話しが出ましたが、9月にリバーサイドフェスタというイベントが今年もあります。夕日をテーマに掲げていますが、商店街や市民団体その他様々な団体の結び付きが出来て、そういう意味で大変意義があると思っています。

**問** 同じテーマを掲げている釧路JCさんとも結び付きが出来たら、大変意義のあるまちづくりの一つになるものと考えています。

**答** もうひとつ「チューリップ&花フエア」というイベントがあります。もう30回を超える釧路の一大イベントですが、近年はマンネリ感が否めませんでした。以前は行政中心で開催されていましたが、3年前より「わっと」が橋渡し役になり行政・地域との3者の協働イベントになっています。

**問** 例えば、5月15日にボランティアによる花植えを行います。現在も募集しています。こういう参加を通してチューリップフェアは皆さんのイベントになっていきます。ステージ上もただ演奏やダンスだけではなく、企画や設営から参加してもらおうようにしています。

のように活動を続けていきますか？理想としているものがあれば教えてください。そして最後に読者に一言お願いします。

**答** 「わっと」としての理想というか役割は市民団体との「協働と牽引力」、つまり共に活動を行い団体同士の間を強めていくと同時に、アドバイスなどにより引っ張っていく力も必要だと感じています。その2つを追求していく事が理想です。是非「わっと」をもっとたくさんの方に利用して欲しいと思います。

### 市民団体の皆様へ ～お知らせ～

(社)釧路青年会議所のホームページを利用してみませんか？

2010年度(社)釧路青年会議所では釧路で活動している市民団体の皆様の活動をより多くの市民へ発信して頂く為に当会議所ホームページにフォーラムやイベント・勉強会・講習会などの告知のお手伝いをさせて頂きまします。各市民団体のホームページの有無は問いません。原稿は手書きでも問題ありません。当ホームページに掲載をご希望の市民団体の皆様は下記までお問い合わせください。また「わっと」に申込用紙を用意していますのでご利用ください。

**【注意事項】** ・団体名・イベント名・連絡先は必ず記載ください。営利目的等こちらが不適切と判断した場合、掲載は致しかねます。ご了承ください。

(社)釧路青年会議所 TEL 0154-42-1121 WEB <http://kushiro-jc.jp/2010/>  
釧路市民活動センター「わっと」 TEL 0154-22-2232 WEB <http://www.946wat.jp/>

# 第26回 霧フェスティバル

# “まちづくり”についてもっと



## 霧フェスコラム 第一回「歴史」

第1回霧フェスティバルは、1985年（昭和60年）釧白工業団地にて行われ、地元で獲れた食材を使った5000人鍋や、人工の霧を発生させたレーザーショーなどが開催されました。翌年1986年（昭和61年）には、くしろ霧フェスティバル実行委員会が立ち上げられ、場所も中心市街地である旧錦町市場跡地で開催されております。

対象も釧路市民及び全国からの観光客と、一般参加型のイベントになってきております。霧フェスティバル宣言文と主旨文も作成され、より霧フェス開催の意義が明確化されるようになりました。

### 【宣言文】

「霧フェスティバルとは釧路を愛する全ての市民が地域の文化向上と活性化を目指し、各人の英知と情熱を結集させ、つくりあげる、霧の祭典である。」

### 【主旨文】

霧を主役として街づくりを考える多くの市民がその英知と情熱を傾けて作り上げたのがくしろ霧フェスティバルである。

今年もくしろ霧フェスティバルがやってきます。皆さんの中には霧フェスの事を釧路J.C.が主催しているものと思っっている人もいらっしゃるかもしれません。しかし釧路J.C.は実行委員会の中の1団体にすぎず、皆さんの団体や個人が集まってあの大イベントを作り上げています。霧フェスの良いところは市民が当日にイベントを楽しむという事はもちろん、何カ月もかけて共に作り上げるという点にあります。

第26回くしろ霧フェスティバルにあなたもスタッフとして参加して、一緒にイベントを成功させませんか？

この頃から1990年代にかけて、開催の主旨や意義をしっかりと見据えつつも、更なる発展と新たな活路を見出すべく多くの試みが行われており、エゾ太鼓等で交流のある宮古市との交流船が来航し多くの来場者が訪れたり、1週間に亘って開催した年や、あひるの大レースなど様々な試みが行われています。

また、1993年（平成5年）以降には、北大通りや栄町公園、そして現在は国際交流センター前庭にての開催がメインとなっております。

この頃から有名ミュージシャンや有名タレントなどの出演も多く見られるようになってきて、より幅広い世代の市民・観光客に認知されてきました。開催当初から受け継がれている本質は変わらずとも、行われているイベントは毎年趣向を凝らしながら、様々なものが開催され、子供から大人まで楽しめる市民の祭りとしてこれだけ大きなものとなり定着しています。年々、学生やボランティア団体などの参加者も増え、より市民の手で作る祭りとなって

きた点は、霧フェス創世記に目指していた形のひとつであると言えます。

## あなたも霧フェススタッフになりませんか？



## 『釧路J.C.の先輩の“まちづくり”』

釧路J.C.のOBは今こうして釧路の為に頑張っています！

（釧路青年会議所メンバーは40歳で青年会議所を卒業します。）

しかし「まちづくり」への意欲はますます大きくなるようです。ここでは釧路J.C.の先輩が今現在メンバーとして活躍している「まちづくり団体」をご紹介します。第一回目は「釧路港おもてなし倶楽部」です。

毎年、釧路港には国内外から多くのクルーズ客船が訪れます。

元来「港」という漢字は、「さんずい」に「ちまた」と書きます。クルーズ客船の寄港は、「水辺の街」ならではの、温かい人々の交流を生み出してくれま

す。このようなクルーズ客船の乗客・乗員と釧路市民の交流を深めて、みなどまち釧路の新たな賑わいを創り出そうとする運動が2008年から

「釧路港おもてなし倶楽部」によって展開されています。実行委員長の宮田昌利先輩はじめ、多くの釧路J.C関係者もメンバーとして活躍しています。

2008年9月、飛鳥IIが寄港した際には、「釧人が船人をもてなす千人の波へ」をスローガンに初おもてなしを行いました。

海鮮炉端、ざんぎ、釧路ラーメンといった釧路の味覚たっぷりの飲食・物産店ブースを設け、勇壮な和太鼓演奏、フォークデュオ・HEAT VOICEライブ、アイヌ

民族の心を詠んだ歌「イヨマンテの夜」の独唱が会場を盛り上げました。また、北海道教育大学学生による市内循環バスガイドなど官民10の諸団体が様々なイベントを繰り広げました。

出港時のクライマックスシーンでは、スローガンに掲げた通り千人を超える釧路市民に岸壁にお集まりいただき、それぞれがペンライト片手に、海の夕間に消え入る飛鳥IIに向かってお見送りの光を贈りました。

「また来てねえ」と陸で大きな声を出せば、「ありがとう」と船から声返ってくる。「さようなら」と声を出せば、「また来るねえ」と返ってくる。

釧路市民の心と乗船客の心が温かく交わる感動的な時間をその場にいた全ての方が共有しました。

釧路港おもてなし倶楽部では、2011年3月の新・旅客船ターミナルのOPENを心待ちにしつつ、このような心温まるクルーズ振興を官民協働で展開しています。

あなたも一緒に「みなどまちづくり」に挑戦してみませんか？



飛鳥IIのお見送り (2009.9.4)

# くしろの魅力発掘委員会

私たちの住むくしろ地域にはたくさんの魅力があふれていますよね。私たち釧路青年会議所は地域の特性であるくしろの魅力をどのような方法を用いて、地域の発展・活力向上につなげていくかを柔軟な発想で発掘していきたいと思っています。まず過去に私たちが行った活動・運動を紐解き、今活かすべきくしろ地域の魅力を紹介します。そしてその魅力を活かした新たなまちづくりの形を進めて参ります。

(社)釧路青年会議所は2010年度2月16日(火)観光振興、地域振興に関わる方や中心市街地の事業者の方々をお招きし、2月第二例会「先人たちの足跡」―今活かすべき魅力―を公開例会として開催しました。本日は「くしろの魅力発掘委員会」菅野貴光委員長にお話を伺いました。

## を紹介します！

今年度の(社)釧路青年会議所には、「政策室」「社会開発室」「人間開発室」「総務室」という4つの部門で構成されています。ここでは主に釧路J.Cの「まちづくり」に関する部門である「政策室」と「社会開発室」の活動をご紹介します。

今年度の政策室は「くしろの魅力発掘委員会」、社会開発室は

## 『中心市街地発祥による“B級グルメ”の誕生を提唱』

くしろの魅力発掘委員会 第一回例会にて (平成22年2月16日)



**聞き手**  
委員長 菅野貴光氏

**問** 本日はよろしくお願ひします。

**答** それではまず例会の内容を簡単にお聞かせください。

**答** まず第一部では温故知新の観点から(社)釧路青年会議所政策室の過去の活動・運動を振り返り、それら活動・運動と行政の積極的な取り組みにより中心市街地のリバーサイドエリアと景観エリアという二つの素晴らしい魅力が出来つつある事。現在釧路に滞在するビジネス客は増加している飲食エリアに流れるという現状。そしてそれらを活かす事が今必要だという事を説明し

ました。そしてそれら「景観エリア」「リバーサイドエリア」「飲食エリア」を結びつけ、新たな観光エリア、つまり「新たなくしろの魅力」として活用することで中心市街地を活かした観光振興として取り組むべきとの考えに至りました。

第二部では中心市街地活性化による観光振興に向けた方策として、中心市街地を活かした「まちなか観光」を行う第一歩として数ある魅力の中でも、釧路を訪れる観光客・ビジネスマンが最も期待を寄せるとされる「食の魅力」について検証しました。釧路の今ある魅力の一つである食材、これを活かす事こそ新たな基幹産業になる可能性として、釧路に必要な事なのです。私たちの住むこの釧路は元々一次産業品(特に水産物)に恵まれています。

そこで私たちは「B級グルメ」をこの釧路地域において立ち上げることを提案しました。以上の検証を踏まえた結果、「中心市街地発祥による、B級グルメ」の誕生が、まちなか観光における有効な手段であるとの結論に至りました。これは「釧路をイメージさせる『で当地グルメ』の創造」と言い換える事も出来ます。

**問** そのB級グルメを釧路においてメジャー化させるには、これから何が必要なのでしょう？

**答** その前に、「食」を通じた地域活性化にはどの地域も共通した3つのポイントがあります。

## 『中心街の事業者を中心とした協議会の設立も視野に!』

- 1、地域独特の「食」を見出す
- 2、「リーダー」の存在
- 3、メディアの取材意欲が湧く「仕掛け」

の3つです。幸いな事に私たちの住む「くしろ」には既に魅力ある多くの「食材」が存在します。あとはそれに関わる熱心な「人材」の発掘と地域外へのアピールの仕方次第で、中心市街地へ多くの集客のチャンスが生まれます。

そして「B級グルメ」による集客効果などを継続的に把握していくためには、まちおこしのため一一致団結し、協力するという姿勢で臨む事が大事なのです

**問** それでは(社)釧路青年会議所としては、今後どういった取り組みをしていく予定なのでしょう？

**答** (社)釧路青年会議所では、中心市街地をくしろのB級グルメ発祥の地とするべく「中心市街地の事業者を中心とした協議会の設立」を提案します。

協議会の目的は「くしろ地域のB級グルメを確立して永続的にくしろの魅力として活かしていく」事です。その為にはまず、何らかのイベントでくしろ発のB級グルメを決めなければいけません。

**問** くしろ発B級グルメ決定イベントですか。それは楽しみです。では最後になりましたが一言お願いします。

**答** くしろ地域のB級グルメを確立して永続的にくしろの魅力とし



2010年6月1日(火) 第2回例会・2010年10月25日(日) 第3回例会  
例会は一般公開となっております。  
皆さんの参加をお待ちしています。  
詳しくは、(社)釧路青年会議所ホームページをチェック!!

くしろの魅力発掘委員会  
今後の活動スケジュール

て活かしていく為に、中心市街地の飲食店同士の情報交換を密にし、結束を深め、一丸となつてPRし続けることが重要です。そうする事で、「B級グルメ」効果の把握や集客の為の新たな立案・中心市街地の空き店舗の活用・効果的な情報発信ができ、「住んで良し、訪れて良し」の地域づくりに繋がるものと考えます。今後の(社)釧路青年会議所「くしろの魅力発掘委員会」に期待して頂き市民の皆さんも様々な立場で参加頂きたいと考えています。本日はどうもありがとうございました。

# —しあわせ共働委員会—

「みなさんの周りは笑顔と喜びで満ち溢れていますか」  
 幸せな社会を築く為には、まず人とのかわりなくしては成り立たないのではないのでしょうか？人とコミュニケーションをとる中で、お互い向き合い目を合わせ、心を通わせながら対話する事が大切だと思えます。私たちは、これまでの事業を振り返り、社会人として親として子ども達の豊かな心をはぐくむ為に次世代に伝えていく事は何かを探求してまいります。そして、子どもと大人があたたかくふれあう場を提供したいと考えています。そこで2010年4月5日(月)、4月第一例会「共に育もう豊かなこころ」～笑顔と笑顔をむすぶ意識と行動～を公開例会として開催しました。本日は「しあわせ共働委員会」伊藤美香委員長にお話を伺いました。

# くしろJCの“まちづくり”

「しあわせ共働委員会」で構成されています。この2委員会はそれぞれテーマに沿って、3回ずつ例会を行い調査・研究結果や提案・提言などを行います。さらに事業を通して市民意識を高めたり、まちづくりへのきっかけを作ったりするのも活動の一つです。それでは詳しくご説明しましょう。

## 『子どもから大人まで感動・笑顔に満ち溢れたコミュニケーションを充実させる育成活動を推進！』

しあわせ共働委員会 第一回例会にて (平成22年4月5日)



【聞き手】  
委員長 伊藤美香氏

【例會】 例會お疲れ様でした。それでは例會内容を簡単に振り返って頂けませんか？  
 【委員】 本例會は三部構成で行いました。第一部では(社)釧路青年會議所の社会開発室が永きに亘り設置され、取り組んできた事業の歴史を振り返り、その時代に合った社会開発活動と役割の変遷をご紹介させて頂いていただきました。そして第二部では、国や道、市の調査資料をはじめ、実施した街頭アンケートなどを基に、子どもを取り巻く社会問題とその要因について、子どもを取り巻く

環境「家庭環境」地域社会の現状」という3つの視点から分析しました。第三部では取り上げた問題解決のために、大人も子どもも共に豊かな心を育めるよう当委員会が導き出した「ノーマライゼーション」の考えを取り入れた育成活動への考えをご提案させて頂きました。

【委員】 ありがとうございます。私たちの最も身近な部分である第二部の3つの視点はどのように分析されたのでしょうか？  
 【聞き手】 まず、「子どもを取り巻く環境」については、子どもの心と体に悪影響を与える事が懸念される大人と子どもの生活環境の変化があげられました。具体的には家中で遊ぶ事が多い、家族で食事をとらないなどです。  
 次に「家庭環境」ですが、増え続ける育児放棄を含めた児童虐待の問題などがあります。  
 そして「地域社会の現状」ですが、大人同士のコミュニケーション不足による子育てへの不安感や負担感の増大などです。これらは決して人ごとではなく私たちのすぐ身近にある問題である事柄なのです。

## 『共に育もう豊かなこころ～笑顔と笑顔を結ぶ意識と行動～』

【委員】 がいがあってもだれでも参加出来る普通で暮らせる社会という意味です。一番わかりやすい例としては、バリアフリーですね。子どもも大人も心の豊かさを育む為には「コミュニケーションを充実させる事が出来る育成活動」を行い広がり継続することが大切です。その部分で障がい者の方も普通に参加できるようなノーマライゼーションの考え方を取り入れていくべきと考えました。

- 【委員】 コンセプトは理解出来ました。でも個人で実行に移すのはなかなか難しいですね。
  - 【委員】 私たちは調査を進めていく中で、今この地域において希薄になりつつある「コミュニケーションを充実させる事が出来る育成活動」が求められていると強く感じようになりました。しかしこのコンセプトを形にしないと意味がありません。頭で理解して解決するような問題ではないからです。そこで私たちは今回の例會で、子どもと大人・子どもと子どもの共働活動を次のように提案させて頂きました。
- ① 豊かな心を育む前提としての「野外活動」
  - ② 豊かな心の土台となる体づくりも兼ねて「食育活動」
  - ③ おもいよりの心を学ぶための「福祉活動」
- まず、①は体験から来る自己発見そして異なる世代の共働作業による発見、②は自然の恩恵や「食」



【委員】 子どもも大人も住民みんなが笑顔で暮らしたいですね。最後にありがとうございました。読者の皆さんに一言お願いします。

【委員】 今後、私たちしあわせ共働委員会を先頭に(社)釧路青年會議所一丸となって、この心の育成活動に取り組んでいきます。期待して頂きたいと思えます。本日はありがとうございます。

しあわせ共働委員会  
今後の活動スケジュール

2010年8月2日(月) 第2回例会・2010年11月28日(日) 第3回例会  
 例會は一般公開となっております。皆さんの参加をお待ちしています。詳しくは、(社)釧路青年會議所ホームページをチェック!!

# (社)釧路青年会議所

# くしろ夕日プロジェクト

## フォトコンテスト作品ギャラリー

(社)釧路青年会議所「くしろ夕日プロジェクト」は2009年度より始まった注目の事業です。

世界三大夕日“くしろ”は行政も本腰を入れて取り組んでおり、釧路川リバーサイドでは昨年まちづくり団体と周辺地域住民が「釧路川リバーサイドフェスタ2009夕日に遊ぼう、母なる川と」を開催するなど、いまやトレンドなのです。

普段暮らしている私たちには普通に「きれいだなぁ」と思う程度の夕日ですが、これが観光にとってはすごい資源になります。なにせ世界三大夕日です。世界のトップ3に入るものなんて日本中探してもほとんどないでしょう。まずはみなさん、地元の夕日をもう一度よく見てみてください。きっとまちの自慢になります。



「くしろ夕日プロジェクト2009」で昨年行われた事業の中から「くしろの夕日フォトコンテスト」をご紹介します。世界三大夕日はやはり本物を見るのが一番ですが、周りの風景を含めた夕日美しい時期は春や秋など限られています。そこで秋の一番美しい時期の夕日の情景をレンズに収めて頂きそれを釧路内外に発信し、**世界三大夕日を通してくしろを有名にしよう!**という目的のもと開催しました。くしろの夕日という観光資源に、より深みとストーリー性を持たせるために写真に合わせて夕日にまつわる「キャッチコピー」も同時募集しました。この冊子の表紙に掲載の最優秀賞「共演」と最優秀キャッチコピー「くしろの夕日にはドラマがある」は現在、たんちょう釧路空港内到着ロビーに掲示させて頂き、くしろ夕日PRに活躍しております。

「くしろ夕日プロジェクト2009」では今後の指針として「くしろ夕日ビジョン」を作成しました。誌面の都合上ほんの少しですがご紹介します。

くしろ夕日ビジョンとは『世界三大夕日のまち・くしろ』というブランドを確立する為のベースになるものです。

くしろ夕日ビジョンの方向性は次の3つから成ります。

- (1)日常の中で意識する「くしろの夕日」
  - ・くしろ夕日予報やくしろ夕日の日、くしろ夕日公園といったような環境整備の提案
- (2)大きく発信!「くしろの夕日」
  - ・くしろ夕日マップやくしろ夕日十景などのイベント・取り組みによる発信の提案
- (3)みんなで活かす「くしろの夕日」
  - ・くしろの夕日を冠した関連イベントや商品・メニュー開発の提案

詳しくは、(社)釧路青年会議所ホームページ「くしろ夕日プロジェクト」でご覧いただけます。

## いよいよ次号で「くしろ夕日プロジェクト2010」の内容を発表します。おたのしみに!!



### 新入会員紹介



会員開発委員会  
**秋山 竜樹 君**  
株式会社ガイダンス  
代表取締役



くしろの魅力発掘委員会  
**粕谷 智和 君**  
㈱エルム楽器釧路支店  
社長付



総務広報委員会  
**栗林 延年 君**  
㈱三ツ輪商会  
取締役企画営業部長



しあわせ共働委員会  
**齋藤 大 君**  
釧路商工会議所  
地域振興部振興課



しあわせ共働委員会  
**中村 幸史 君**  
㈱くしろ都寿司  
代表取締役社長



くしろの魅力発掘委員会  
**松澤 孝夫 君**  
㈱道東厨房  
代表取締役



会員開発委員会  
**横田 英喜 君**  
横田税務会計事務所  
副所長

### 編集後記

ご覧頂きまして、誠に有難う御座います。この度、「市民の為のまちづくり発信誌」としてリニューアルさせて頂きました本誌作成にあたり、快く取材に御対応頂きました釧路市長様、釧路市民活動センターわっとの皆様をはじめ数多くの方々の協力を頂きました。いろいろ声を聞かせて頂いた中で、皆様の「まちづくり」への思いはひとつ。くしろを知り、くしろに自信を持つ事で更なる発展の為の発信が出来ることと確信いたしました。委員会メンバー一丸となり、「くしろ」を発信するべく取り組んで参ります。

今後とも(社)釧路青年会議所の活動・運動に御理解・御協力を頂き、市民の皆様と共に発信していきたいと思っております。次号は7月発行予定です。

総務広報委員会 委員長 川村真一

(社)釧路青年会議所 事務局  
 釧路市大町1-1-1  
 道東経済センタービル 5F  
 TEL 0154-42-1121  
 FAX 0154-42-4410  
 発行責任者 後藤 公貴  
 編集責任者 川村 真一